ジオン（ALTA）注による日帰り治療を受けられる患者さんへ

監修
神戸マリナーズ厚生会病院 肛門科 特別顧問
（元 黒川梅田診療所 院長）
黒川 彰夫 先生

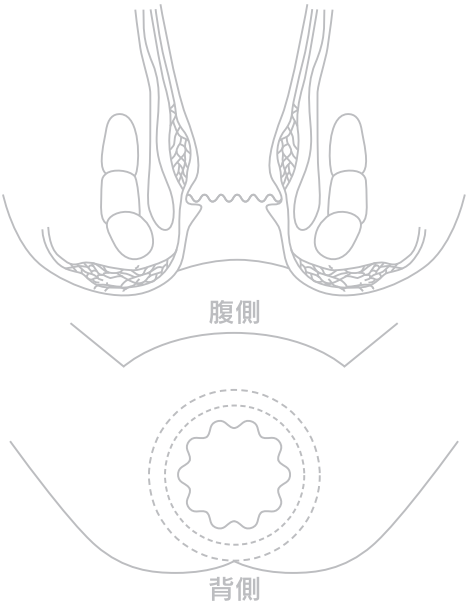
担当医師から患者さんへ

あなたのジオン注治療の予定は

月　　日　午前・午後　　時　　分頃からです。

日帰りジオン注治療を受けるにあたっての注意

- ジオン注治療の前夜は早く就眠し、当日は排便をしておいてください。
- ジオン注治療にあたって、食事はしっかりとっておいてください。
  絶食の必要はありません。
- ジオン注治療後は自動車、オートバイ、自転車の運転はしないようにしてください。
- ジオン注治療後、翌日に診察を受けてください。
  その後の通院については、必要に応じて医師から説明を受けてください。



ジオン注による
日帰り治療を受けられる患者さんへ

●今回、投与する予定のお薬は「ジオン（ALTA）注」という注射剤で、脱出を伴う内痔核（排便時に出てくる、あるいは普段から出たままになっているような肛門の中にあるいぼ痔で、肛門の病気のうち最も多い）に対して、注射による治療を可能にしたものです。

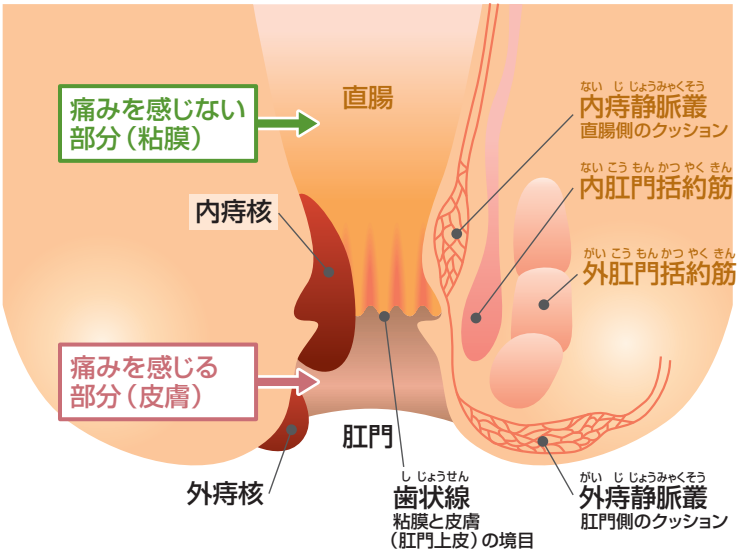
●この冊子では、おもに内痔核、ジオン注の投与に関わること、日常生活における注意点などをご紹介しています。
冊子を読んで、わからないことや不安なことがありましたら、遠慮せずに医師に相談してください。

もくじ

1 痔核（いぼ痔）とはどのような病気でしょうか？ ……3
2 ジオン注による日帰り治療法はどのようなものでしょうか？ …4
3 ジオン注とはどのような薬でしょうか？ ……4
4 どのようにジオン注を投与するのでしょうか？……5
5 ジオン注を投与するとどのようになるのでしょうか？ …6
6 ジオン注投与後の経過は？……7・8
7 投与後の生活で注意することはなんでしょうか？ ……9
8 痔にならないためには日頃どのようなことに気をつけるべきでしょうか？……10

1 痔核（いぼ痔）とは どのような病気でしょうか？

肛門の少し奥には肛門を自然に閉じるための血管に富んだ柔らかい部分があります。肛門への負担が大きくなるとその血管は太くなり、蛇行し、静脈瘤のようになります。それを**痔核（いぼ痔）**と呼びますが、徐々にうっ血が強くなり出血を起こすようになります。さらに長く放置すると痔核は大きくなり、支持している組織が引き伸ばされて肛門の外に脱出するようになります。これを脱肛と呼んでいます。



痔核には、歯状線より直腸側にできる**内痔核**と、肛門側にできる**外痔核**があります。また、内痔核が大きくなって脱出するようになると肛門側の痔核、つまり外痔核を伴って**内外痔核**という状態になることもあります。

2 ジオン注による日帰り治療法とはどのようなものでしょうか？

「脱出を伴う内痔核」にジオン注を投与して痔核に流れ込む血液の量を減らし、痔核を硬くして粘膜に癒着・固定させる治療法です。しかも注射翌日から出血が止まり、数日で痔核が脱出しなくなります。

痔核を切り取る手術と違って、痛みを感じない部分に注射するので「傷口から出血する」「傷口が痛む」というようなことはなく、日帰り治療が可能となりました。

3 ジオン注とはどのような薬でしょうか？

ジオン注の有効成分は硫酸アルミニウムカリウム水和物とタンニン酸です。

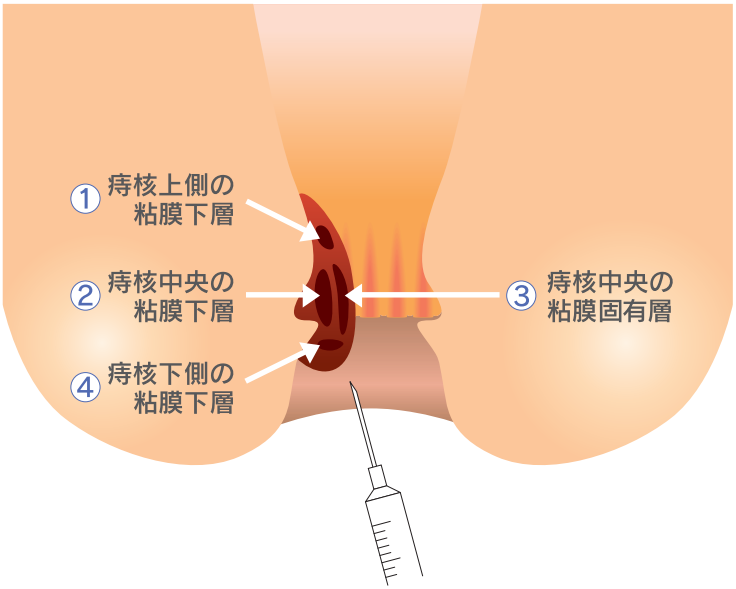
硫酸アルミニウムカリウム水和物	出血状況や脱出状況を改善する
タンニン酸	硫酸アルミニウムカリウム水和物の働きを調節する

有効成分の頭文字からALTA※（アルタ）とも呼ばれます。

※Aluminum Potassium Sulfate Hydrate・Tannic Acid

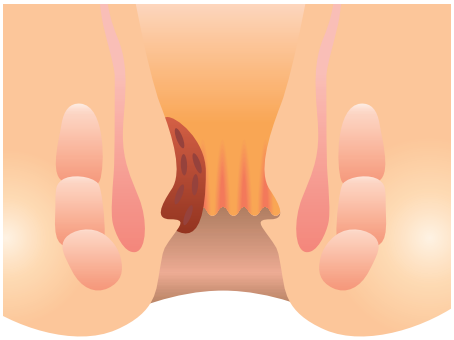
4 どのようにジオン注を投与するのでしょうか？

ジオン注は痛みを感じない内痔核に注射するので痛みはありません。したがって、麻酔は必要ないのですが、肛門鏡を挿入するのに抵抗がある方には肛門を緩めるために麻酔をかけます。麻酔の方法については医師にお尋ねください。ジオン注は四段階注射法といって図のようにひとつの痔核に4か所に分けて注射し、薬液を十分に浸透させます。複数の痔核がある場合は同様に行います。注射後は落ち着くまで30分～1時間程度の安静が必要です。

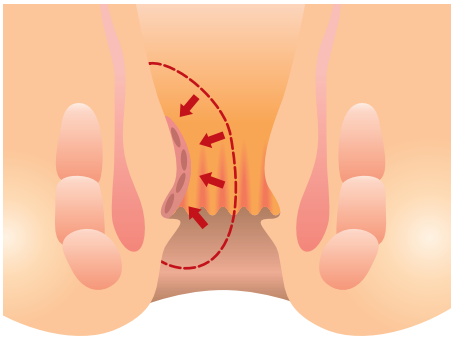


5 ジオン注の作用はどのようなものですか？

投与後の早い時期に痔核へ流れ込む血液の量を減らし、翌日には出血を止めて、脱出の程度も軽くします。



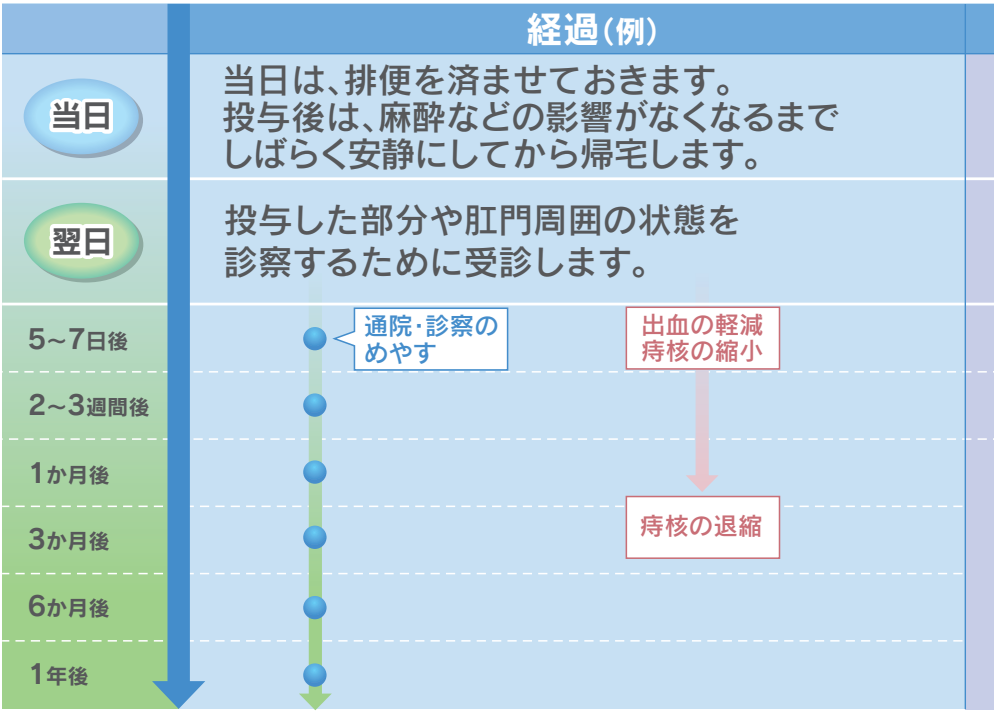
腫大していた痔核は次第に小さくなり、引き伸ばされていた支持組織を元の位置に癒着・固定させ、脱出を改善します。
（1週間～1か月）



出血を止めます。

脱出や肛門のまわりの腫れを改善します。

6 ジオン注投与後の経過は？



排便について

- ジオン注治療後の最初の排便は自宅でもかまいませんが、5分程度で。当日の排便もかまいません。
- 排便時に多少の出血が見られる場合があります。
  ※ジオン注治療では1～3か月目ごろに出血がみられる場合があります。
- 便が出ないとき、少ないときは浣腸をする場合があります。

通院について

- ジオン注治療を受けた翌日に、診察を受けてください。
- 好ましくない作用（副作用）が起きることもあるので、医師の指示にしたがい定期的に通院してください。

他の医療機関で直腸肛門の診察を受けられる場合には、ジオン注治療を受けたことを必ずお伝えください。

治療後は注射した場所が硬くなっていることがあり、他の医療機関で診察を受けられる場合、この症状を誤って悪い病気と診断される可能性があるので、ジオン注治療を受けたことを申告してください。

望ましくない作用（報告例）

血圧低下、下腹部痛、嘔気（気持ち悪い、胃のあたりがムカムカする）などの症状がみられることがあります。

肛門部が重いような感じ（肛門部の違和感）
……短期間（数日）でなくなります。

肛門の投与部分（粘膜）が硬くなる…通常自然に治ります。

発熱は、投与2週間後までに一過性にあらわれることがあります。

この治療法は、痛みが続く・出血・排便がしづらくなる・熱が出る、などの好ましくない作用があらわれることがあります。そのため定期的に通院していただく必要があります。

通院期間は、処置した痔核の数や大きさなども含めて患者さんの症状により異なります。

普段と違った気になる症状（痛み、出血、排便がしづらい、発熱など）があらわれた場合には、すぐに担当医師の診察を受けてください。

副作用が隠れていることもありますので十分に検査・診察を行い、症状に応じた適切な処置を行います。症状によってお薬（炎症を抑えるための抗生物質や消炎鎮痛剤、あるいは便をやわらかくするための緩下剤）の投与、坐浴、手術を行うことがあります。

7 投与後の生活で注意することはなんでしょうか？

ジオン注による治療は痛みが少なく、通院で治せることが特長です。時には、痛みを感じる場合もありますが、早く治すためにも次の点をお守りください。

入浴について

- ジオン注治療の当日は入浴できませんが、翌日からは普通に入浴しても大丈夫です
- 当日シャワーを浴びることはかまいません

食事について

- アルコール類は完治するまで飲まないでください
- わさび、胡椒、とうがらし、カレー、コーヒーなどの刺激物は3週間程ひかえるようにしてください
- 油っこい食事はしばらくひかえるようにしてください

日常生活について

- 仕事復帰は翌日から可能です。ただし、2週間くらいは重いものを持つなど、お尻に力の入ることは避けるようにしてください
- 自動車、オートバイ、自転車の運転は約1週間避けてください
- イスに座る場合は深く座り、1時間毎くらいに立つ、歩くなど、休憩をとるように心がけてください

8 痔にならないためには日頃どのようなことに気をつけるべきでしょうか?

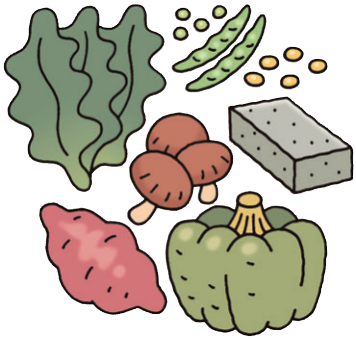
規則正しい排便習慣を身につけましょう

●便意があったら
我慢せずトイレに行く

●無理に出し切ろうとせず、
排便時間は5分以内で

便通に良い生活を心がけましょう

●便通を整えるために食物繊維や水分を摂る



●下痢を防ぐためにアルコール類、香辛料などはひかえる
●腸の働きをよくするために適度な運動をする
●便秘の原因になる無理なダイエットはしない

●お風呂に入って血行を良くする

●長時間、同じ姿勢をとり続けない
●過労やストレスを避ける
●身体を冷やさない

memo

病・医院名

ミックス
紙 | 責任ある森林管理を支えています
FSC® C002641

ジェイドルフ製薬株式会社

ZON-322G(fj)
2026年5月作成
(審019)